

新年ご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会長 山本 信夫



新年明けましておめでとうございます。青森県薬剤師会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の進める諸事業に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の類型の変更により、多くの社会活動が再開されました。しかし、感染症を完全に制御できたわけではありません。これからは、国民一人一人が健康状態を自ら確認することが不可欠で、地域住民のセルフケア／セルフメディケーションへの積極的な支援は、これまで以上に地域の薬剤師・薬局の重要な役割となっています。

一方、国を挙げて医療DXが進められており、薬局・薬剤師にはオンライン資格確認や電子処方箋への対応等が求められています。皆様には何かとご負担をお掛けしておりますが、薬剤師資格証の取得などに引き続きご協力をお願いいたします。

また、令和6年度には、医療・介護報酬に加えて障害福祉サービス等報酬を含むトリプル改定が予定されています。公定価格で運用されている医療保険では、昨今の物価高騰・賃金上昇に対応できず、加えて6年連続の薬価改定の甚大な影響と相まって、保険薬局は厳しい経営状況が続いています。日本薬剤師会では改定財源の確保と同時に、医科・調剤の公平な配分を維持するため、関係各方面へ働きかけを進めるとともに、長引く医薬品の供給不足に対しても、厚生労働省と連携し、問題の解決に向け引き続き積極的に関わっていく所存です。

さらに、本年度は各都道府県で第8次医療計画がスタートします。5疾病と新たに加わった新興感染症を含む6事業、並びに在宅医療の全てに薬剤師・薬局の役割が明記され、地域への医薬品の供給はすべからく薬剤師が担うことが期待されています。これまで大きな課題とされてきた薬剤師の確保についても、各都道府県で取組みが進められるものと思います。

そして、規制改革推進会議は「対人業務の充実」、「持続可能な在宅医療提供体制」、「デジタル技術の有用性を踏まえた医薬品販売」といった美辞麗句を並べ、「調剤業務の外部委託」、「訪問看護ステーションへの薬剤配置」、「コンビニでの医薬品販売」など、薬剤師業務を根底から揺るがす理不尽な要求を繰り返し主張しています。こうした動きに対しては、会員の皆様のご理解とご協力を得ながら、薬剤師職能の存在意義を踏まえて反対してまいります。

国が目標に掲げる「地域包括ケアシステム」の構築時期まで1年あまりとなりました。超高齢社会が本格化する2025年を目前にして、如何に地域社会と共生していくかがこれからの薬局・薬剤師にとって重要な課題と考えています。日本薬剤師会では、地域への医薬品提供を担う薬剤師・薬局がその責任・役割を果たせる環境づくりに向けて、覚悟と矜持を持って会務を進める所存です。

結びにあたり、青森県薬剤師会会員の皆様方にとって実り多い一年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。